

官営八幡製鐵所都市と鎮守府都市佐世保の市民交流が始まる

・2つの明治都市の市民交流が始まります。2月11日(土)、2月12日(日)に北九州市八幡東区枝光一区の住民リーダーと枝光をサポートされてきた九州大学志賀研究室が山澄地区と白南風町を訪問されます。官営八幡製鐵所都市と鎮守府都市佐世保はともに120年以上の期間を経た都市間交流の実現です。

・官営八幡製鐵所は1901年(明治34年)に操業開始され、鎮守府の佐世保設置は1889年(明治22年)です。この2つは九州の富国強兵都市でした。官営八幡製鐵所は世界遺産、鎮守府佐世保は日本遺産として、今では観光にシフトした都市像を掲げて新たなまちづくりに挑戦しています。

・ともに市民中心の地方創生に取り組んでいます。訪問される二日間は枝光一区地域のこれまで23年の地域再生をご教示いただくことと、これからの末長い交流を願っております。

・明治産業遺産の2つの斜面都市。その市民が未来志向の意見交換を始めます。

・すでに特別8号によってお知らせしている12日の「井戸端会議」への枝光一区訪問者も参加される予定です。



かつての八幡製鐵所の高炉



八幡東区枝光一区の斜面地空き地

「移住の波に乗りたい」

・現代は移住の時代ようです。通信と交通が、人と人、地域と地域の社会的距離を縮めています。この3年の新型コロナという「はやり病」は移動しなくてもできることと、どこにいても活動ができることを私たちに教えてくれました。これからは移住とそれを受けいれるコミュニティづくりが進むものと思っています。

・「坂の上の暮らし」のあり方にも移住は大きなテーマになるでしょう。私たちもこれからの新しい移住の波に乗りたいのです。国内では東京、大阪、名古屋、福岡、五島からの移住と相互交流が考えられますし、海外からは欧米やアジアからの移住も進みます。移住のあり方や希望者の声を積極的に扱うつもりです。ご期待下さい。

斜面地低未利用地再生事業

2月12日(日)は初めての「井戸端会議」を開きます。10:00~12:30で白南風町36番6号と36番10号がその場所です。「みんなの広場(整備中)」に大きなテントを張り、石ころ拾いをしながらお茶を飲みませんか。坂の上の暮らしをテーマに支え合いの暮らしを語りあいましょう。 09058202931 (柄澤)

コミュニティの再生

白南風の坂の上に住む人々は仲がよく、立ち止まっての語り合いを楽しんでいます。湧き水のあるところや花の咲くところがその場所になっています。家の中からはスマホをつかったのおしゃべりをされているようです。斜面地の社会は気遣いのある社会でもあります。居住者を支えあうコミュニティの再生を進めましょう。

斜面モビリティ事業

白南風を歩いていると、道路が使いにくくなっていることがわかります。電信柱、ケーブルテレビの小さな柱、古い防火用水、ふたのない側溝等が道路の障害物になっています。また、蜘蛛の巣のように電線が空中を走っています。道路周辺やその上下の整備が進んでいないということでしょう。斜面地のモビリティ再生は道づくりとドローン等の活用がテーマです。